



ギターコンボアンプ NOVA 15T

取扱説明書

Ver. 1.1

安全上の注意

本製品を使用する際は、以下を含む注意事項を常に守ってください。

- ・使用前に必ず本書をお読みいただき、内容をご理解のうえ大切に保管してください。
- ・清掃の際は、乾いた布でお手入れしてください。
- ・ラジエーター、ヒーター、ストーブ、またはその他の熱源の近く、高温になる場所には設置しないでください。また、換気口や冷却ファンがある場合、通風を妨げないように注意してください。
- ・電源コードを踏んだり、押しつぶしたりしないようにしてください。
- ・指定のアタッチメントやアクセサリのみを使用してください。
- ・雷の発生時や長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・本機への液体のこぼれ、異物の侵入、雨や高い湿気への接触、落下の衝撃などは、正常な動作に支障をきたすおそれがあります。
- ・正常に動作しない場合や電源コードやプラグの破損がある場合、検査および修理が必要となります。購入店またはサウンドハウスまでお問い合わせください。

株式会社 サウンドハウス

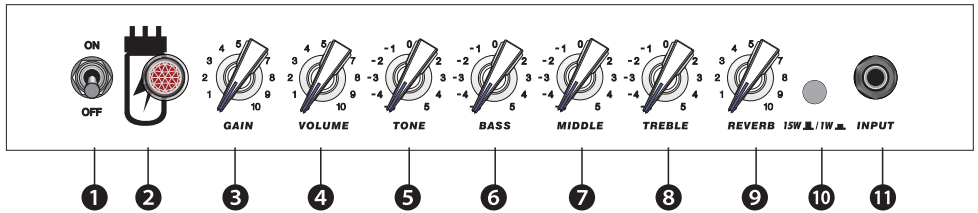
〒286-0825千葉県成田市新泉14-3

www.soundhouse.co.jp

E-mail: shop@soundhouse.co.jp

TEL: 0476-89-1111 FAX: 0476-89-2222

フロントパネル



❶電源スイッチ

ユニットの主電源を操作します。真空管アンプは、電源を入れてから演奏できるようになるまでに30秒～2分ほどのウォームアップ時間が必要です。

❷電源インジケーター

アンプの電源が入っているとき、点灯します。

❸GAIN

プリアンプにかけるゲイン量を調整します。高く設定するとプリアンプでの歪みが得られ、低くするとクリーンサウンドになります。VOLUMEコントロールと併用して、プリアンプとパワー段の歪みのバランスを調整してください。

❹VOLUME

アンプの音量を調整します。VOLUMEを少し上げてパワー管をより強く駆動させると、ヴィンテージ感のあるサウンドとフィーリングが得られます。そのうえで、ギター側のボリュームで歪みの量をコントロールしてください。

❺TONE

TONEコントロールは、ギター本体のトーンノブと似たような動作をしますが、アンプの最終段で機能する点が特徴です。高域のレスポンスを調整するだけでなく、出力段やプリアンプのオーバードライブ音に含まれる高調波成分も抑えられます。高めに設定すると明るく鋭いサウンドに、低めに設定すると滑らかで丸みのあるサウンドになります。(中央の「5」が開始点としておすすめです。)

❻❽❿BASS、MIDDLE、TREBLE

伝統的なパッシブトーンコントロールです。(各ノブの「5」が開始点としておすすめです)

❾REVERB

リバーブの量を調整します。

❿15W/1W出力設定切り替え

2つの出力設定を切り替えるためのスイッチです。

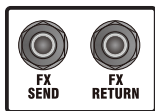
⓫INPUT

ギター接続用のフォン端子です。



FOOTSWITCH

内蔵のリバーブをリモートでON/OFF できる2極フォン端子です。



FX SEND

外部機器を接続するための端子です。この端子の出力を外部機器の入力に接続してください。また、この端子はラインレベル出力(−10dBV基準)としても使用できます。

FX RETURN

外部機器で処理された信号をアンプに戻すための端子です。(−10dBV基準)



外部スピーカー

8～16Ωの外部スピーカーを接続するために使用します。

※インピーダンスの不一致はアンプの性能を低下させるだけでなく、アンプを損傷させる可能性があります。

仕様

定格出力	15 W
周波数特性	80 Hz ~ 10 kHz
ハムノイズ	< −75 dB (定格出力時)
入力インピーダンス	1 MΩ
消費電力	最大50 W
スピーカー出力端子	8 Ω ~ 16 Ω
真空管(パワー管)	EL84 ×2
真空管(プリ管)	ECC83/12AX7 ×3
寸法(H×W×D)	456 × 436 × 242 mm
質量	15.0 kg
スピーカー	12" Celestion Seventy 80

真空管アンプの取り扱いについて

- ・使用前にアンプの電源をあらかじめ入れて、しばらくウォームアップさせてください。
- ・出力管を交換する場合は、必ずセット全体に同じメーカーの真空管を使用してください。異なる種類の真空管を混ぜて使用しないでください。真空管のピンがアンプのソケットと正確に一致しているのを必ず確認してください。
- ・可能であれば、使用后、移動させる前にアンプを15分ほど冷ましてください。
- ・高品質な信号ケーブルとスピーカーケーブルを使用し、定期的に状態を確認してください。多くのギター／ベースキャビネットはフォン端子を使用しています。このコネクタは、接続時に一瞬ショートする構造です。アンプの出力をショートさせないため、まずケーブルをキャビネットに接続してから、アンプ側に接続するようにしてください。ギター用のシールドもまずギターにケーブル接続してから、アンプに接続してください。
- ・湿気の多い環境下にアンプを保管しないでください。湿度を管理できない庭の物置、ガレージなどは適していません。スピーカーユニットにとっても不適切な環境です。
- ・真空管アンプの設計において、インピーダンスと負荷は非常に重要です。使用するキャビネットに合わせて、必ずアンプ側で正しいインピーダンスが選択されているのを確認してください。多くのスピーカーを並列につなぐ場合、インピーダンスが低くなりすぎないように注意してください。
- ・真空管アンプ(特に真空管とソケット)は、衝撃に弱い構造です。たとえパッド入りのケースに入れていても、落下などの衝撃に耐えられない可能性がありますので注意してください。